

民俗学 ——日本人の信仰とその表出——

クラス
コード

22A25

曜日時間 火曜10:55~12:25

受講料 17,600円

定員 30名

単位 2単位

概要 民俗学は柳田國男によって切り開かれた学問であり、その研究対象は伝承されてきた祭り・儀礼・民話、生活文化など多岐にわたります。本講座では民俗学とは、どのような学問であるか説明し、具体的に身近にある（あった）伝説や祭りを通して、その意味について考えます。

講師 林 英一

獨協大学講師 専門/民俗学
博士(文学)。民俗学の立場から葬送儀礼・祭り・伝説などが、どのような背景や意味の中で成り立ち、どのように変化してきたかを中心に研究。「民俗学」、「地域文化」、「生活文化の発見」、「日本の世間学」などを担当

テキスト プリントを配付します

内容 5月14日~7月2日 (全8回)

- ① 5月14日 民俗学とはどのような学問であるのか。その成り立ちを歴史学との違いを絡めて説明します
- ② 5月21日 日本には多くの祭りがありますが、信仰と祭りの関係、および他界観についてみていきます
- ③ 5月28日 日本には多くの神や妖怪が伝承されています。神と妖怪の関係性を中心に考えます
- ④ 6月4日 桃太郎はなぜ英雄なのか、「水戸黄門」はなぜ長寿番組となったのか、その背景について探ります
- ⑤ 6月11日 奈良時代に記録された浦島伝説を中心に、伝説の背景と歴史を探ります
- ⑥ 6月18日 文化として、地名を捉え、また地名と結びついた地域認識の問題を考えます
- ⑦ 6月25日 草加市でも行われていたオビシャ行事の意味と全国的な広がりに着目します
- ⑧ 7月2日 鶴ヶ島「脚折雨乞」では大蛇が登場します。大蛇と雨乞の関係を探ります